

## 2009年度秋季大会シンポジウム 「東アジアの大気環境」の報告

### はじめに

竹 村 俊 彦\*

日本では、高度経済成長の副作用として各地で公害が社会問題となり、現在も訴訟が継続中の事例もある。しかし、様々な技術革新および施策により日本周辺の環境改善が図られ、一定の成果があげられた。一方、特にここ数年来、日本の大気環境の悪化が西日本を中心に顕著となっている。周囲に大規模な工場や幹線道路が無い離島でも大気が頻繁に霞んだり、夏季よりも春季に光化学スモッグが発生しやすかったりすることなどから、越境汚染による影響が強いと考えられている。

日本気象学会では、2003年度秋季大会において、「東アジア域における環境変化」と題したシンポジウムを開催し、国境を越えた問題への大気科学の対応について考えた。その後の大気環境の悪化は社会生活にも影響が及ぶようになり、多くの研究者が大気汚染の実態とその影響について解明すべく取り組んでいる。今回のシンポジウムでは、皆様に東アジアの大気環境の現状を把握して頂くとともに、今後取り組むべき課題について議論を行うことを目的とした。

シンポジウムでは、主な大気汚染物質の紹介と、大気汚染物質および黄砂の高濃度時における日本での情報発信の問題点を冒頭で指摘した後、基調講演として以下の4名の方々に、大気環境に関する最新の知見を提供して頂いた(所属は当時のもの)。

- 東アジアにおけるオゾン・エアロゾル広域大気汚染  
秋元 肇 (日本環境衛生センター酸性雨研究センター)
- 東アジアにおけるダスト-大気・気候系の解明  
三上正男 (気象庁気象研究所物理気象研究部)
- 気候問題にかかわるエアロゾルの直接・間接のシグナルについて  
中島映至 (東京大学気候システム研究センター)
- 黄砂と中国大都市粒子状物質の健康影響  
市瀬孝道 (大分県立看護科学大学)

最後に基調講演の方々にパネリストとして総合討論を行い、会場からの質問を基に、基調講演の補足説明を行いつつ、問題点の明確化を図った。

このシンポジウムは、学会員のほか、一般の方々にも公開し、毎日の生活に直接的な影響のある大気汚染について考えて頂く機会を提供できたかと思う。会場となったアクロス福岡国際会議場は、社会的関心の高さを象徴するように立ち見が出るほどであり、盛況のうちにシンポジウムを進めることができた。後援頂いた福岡県と福岡市には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

\* 九州大学応用力学研究所。

—2010年5月20日受領—  
—2011年3月23日受理—

Atmospheric Environment in East Asia  
(A Report on the Symposium of the 2009 Fall  
Assembly of the Meteorological Society of Japan)

Toshihiko TAKEMURA\*

\* *Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University, Fukuoka 816-8580, Japan.*

(Received 20 May 2010 ; Accepted 23 March 2011)

Contents

1. Hajime AKIMOTO : Large-Scale Atmospheric Pollution by Ozone and Aerosols in East Asia.
  2. Masao MIKAMI : Analysis of Dust-Atmosphere-Climate System in East Asia.
  3. Teruyuki NAKAJIMA : Signal of Direct and Indirect Effects for Aerosols with Climate Change.
  4. Takamichi ICHINOSE : Impacts on Health by Yellow Sand and Particulate Matters from Urban Areas in China.
-